

株式会社サンプル企業

ベンダー選定 報告書

受注・製造進捗管理システム

作成	AI 活用推進担当
日付	2026-10-24
版	1.0
機密区分	社外秘

1. この文書について

1.1 目的

3 社の提案を RFP 5 章の配点で評価した結果と、**推薦する 1 社**を報告する。

1.2 読み手

- ・ 代表
- ・ 製造部長

1.3 範囲

- ・ 評価の結果、各社の所見、推薦とその理由、残る懸念

1.4 範囲に含まないもの

ここを書かないと、読み手は「書いていないこと=やること」と読みます。

- ・ 契約条件の交渉 — 採択後に別途

1.5 前提と制約

前提が崩れたら、この文書の結論も崩れます。崩れたら作り直します。

#	前提	崩れたらどうなるか
1	RFP 5 章の配点を、提案を見た後で変えていない	結論に合わせて配点を動かしたことになり、評価が成り立たない

1.6 改訂履歴

版	日付	作成	承認	変更の要旨
1.0	2026-10-24	AI 活用推進担当	高梨 亮	3 社の評価を終え、1 社を推薦

1.7 用語

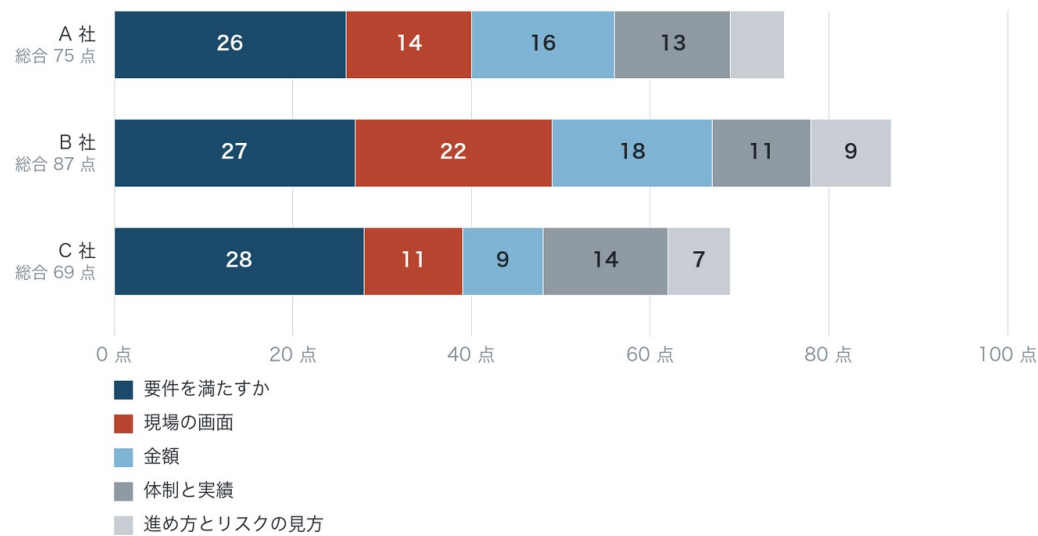
語	この文書での意味
A 社	従業員 180 名。生産管理パッケージを持つ。横浜市内
B 社	従業員 42 名。受託開発中心。川崎市内
C 社	従業員 1,200 名。大手システムインテグレータの子会社。東京都内

2. 結論

B 社を推薦する。総合 87 点で 1 位。決め手は**現場の画面（25 点満点中 22 点）**である。

	A 社	B 社	C 社
要件を満たすか (30)	26	27	28
現場の画面 (25)	14	22	11
金額 (20)	16	18	9
体制と実績 (15)	13	11	14
進め方とリスクの見方 (10)	6	9	7
総合 (100)	75	87	69
5 年間の総額	¥12,840,000	¥11,196,000	¥21,600,000

図表 1 3 社の点数の中身（100 点満点）



総合の差は 18 点だが、現場の画面だけで 11 点開いている。ここが B 社を選ぶ理由である。

資料: RFP 5 章の配点による評価 (2026-10-24~26)

3. 現場 3 名の評価 (25 点の中身)

2026-10-22 と 23 に、SC-06 の画面案を現場 3 名に見せて聞いた。聞いた質問は 3 社とも同じ 4 問。

聞いたこと	A 社	B 社	C 社
手袋のまま押せそうか	△ ボタンが小さい	○ 十分大きい	× 小さい
何タップで始められるか	4 タップ	3 タップ	5 タップ
完了のとき数字を打つか	毎回打つ	既定値が入っている	毎回打つ
自分の工程だけ出るか	○	○	△ 全工程が出る

勤続 22 年の作業者の発言を、本人の許可を得てそのまま記す。

「B 社のは、完了を押したら数字がもう入ってるでしょう。これなら押すよ。他のは毎回打つんでしょう。打たないよ、忙しいときは。」

この 1 言が本件の要点である。要件定義書 7.7 に書いた「良品数に指示数量を既定で入れる」を、B 社だけが提案に反映していた。他の 2 社は要件を読み落としている。

4. 各社の所見

4.1 A 社 — 75 点

良い	自社パッケージがあり、機能の 8 割が既にある。納期が 2 か月早い
良い	横浜市内で、何かあれば 40 分で来られる
懸念	パッケージに合わせて業務を変える提案。図番の付け方を社内コードに揃えるよう求めている (要件定義書 8.3 に反する)
懸念	SC-06 がパッケージ標準の画面のまま。現場の評価が 14 点

4.2 B 社 — 78 点 (推薦)

良い	要件定義書を読み込んでいる。別紙 1 の要件対応表に、Must 28 件すべてに具体的な実現方法が書いてある
良い	SC-06 の試作が動く状態で持参された。現場 3 名が実際に触った
良い	リスクの項目に「図面 426 件の紐付けが遅れると稼働が 2 週ずれる」と明記
懸念	従業員 42 名。本件の主担当が抜けたときの代替が薄い
懸念	類似実績が 2 件。うち 1 件は従業員 180 名の会社で、規模が違う

4.3 C 社 — 69 点

良い	体制が厚く、主担当者の経歴が最も長い（生産管理 14 年）
良い	要件への対応が最も高い（28 点）。技術的な裏付けが具体的
懸念	5 年総額 ¥21,600,000。他社の 1.7~1.9 倍
懸念	SC-06 が PC 画面の縮小版。現場の評価が 11 点で最下位
懸念	リスクの項目に「特にありません」と記載。RFP 3 章で評価を下げると明記していた

5. B 社を推薦する理由

- ・ 本件の成否は SC-06 が押されるかで決まる（要件定義書 7 章）。そこで 22 点を取ったのは B 社だけである
- ・ 要件対応表の書き込みから、要件定義書を実際に読んでいることが分かる。他 2 社は一般論に留まる
- ・ 5 年総額が最も安い（¥11,196,000）。予算 ¥10,338,000 に対し +8.3%
- ・ リスクを具体的に書いている。当社が見落としていた指摘（図面の遅れ）を含む

6. 残る懸念と、どう手当てするか

懸念	手当て	誰が
主担当が抜けたときの代替が薄い	契約に、主担当の交代時は 2 週間の引き継ぎ期間を置く条項を入れる	AI 活用推進担当

懸念	手当て	誰が
従業員 42 名。会社が続くか	決算書 3 期分の開示を求める。 債務超過でないことを確認する	代表
類似実績が 2 件と少ない	1 件の客先に、当社から直接お話を伺う （B 社の同席なしで）	製造部長
金額が予算を 8.3% 超える	Could の 2 機能（FR-505 売上 CSV、FR-206 機械の負荷）を次期に回して調整を打診	AI 活用推進担当

7. 論点と未決

決まっていないことを、決まっていないと書きます。埋めてから出すと、決めた人が誰もいないまま進みます。

#	論点	選択肢	決める人	期限
1	B 社で進めてよいか	① B 社に決める／② A 社と再交渉 ／③ 再公募	代表	2026-10-24
2	Could の 2 機能を落として金額を下げるか	① 落とす（-¥620,000 の見込み）／② 予算を +8.3% 認める	代表	2026-10-31

8. 次にやること

#	やること	誰が	いつまでに
1	B 社に決算書 3 期分の開示を求める	AI 活用推進担当	2026-10-25
2	B 社の実績 1 社に直接伺う（B 社の同席なし）	製造部長	2026-10-31
3	A 社・C 社に不採択をご連絡する	AI 活用推進担当	2026-10-24
4	契約書の草案を作る（主担当交代時の引き継ぎ条項を含む）	AI 活用推進担当	2026-11-07